

いそくじ 以速寺通信

2009/1 第75号

真宗大谷派三鏡山以速寺 発行

〒593-8312 堺市西区草部 79

TEL/FAX 072-275-0339

さらっぴんな一年が始まります

今年元旦0時からの修正会

60余名の皆さんと本堂で『正信偈』をお勤めしました。



今年も青竹灯籠は藤原彦一さんが準備してくださいました

いつもはだか
いつもはだか
はだかで出発する
尊いことだ

竹部 勝之進

報恩講 法話 (抄) その3

本照寺住職 沖野 頼信 師

2008/11/2

阿弥陀さんがね、私たちに目的を作って下さってくれるんです。そうしてその目的を成就するための方法を教えて下さる。

この二つがないとあかんのですね。

私たちは自分で目的を作って自分で方法を考えるんです。私の目的は病気を治すことだという具合にね。

これを迷信というんです。

この中で病気でない人いますか。いてはらへんでしょう。いや、あるいは気がついてないだけで、どこかで血管が詰まってたりね、癌が出来てたりするんです。

どこかに必ず病気の種はあるんです。

平気な顔してますけれどね、皆さんもそして私も、事情は同じなんですよ。

そして種の元は生まれてきたからなんです。生まれてこんかったらよかったですね。そうすると病気にもなれへんし、死ぬということもなかったんです(笑)

ついつい私たちは病気とか死ぬということ避けることを目的とするんです。

健康第一というでしょう。

でも、そうやないんですね。健康は第二なんです。健康、お金、地位名誉、これを第

一にしたらあきまへんのや。

第一というのは何やいうたら、一人ひとりが生まれてきてこれをしたい、この世に生まれてきた甲斐(かい)があったという事です。

それは、生まれた時は無いんですね。それがだんだんと大きくなるにつれて、欲しくて探すようになる。

ところがもともと無いですからね、探し回ってもあきまへんで、無いんやから。



だから自分で作つたらよいんです。そのための健康、そのためのお金、これはいいんですよ。つまり、本来手段であるはずの健康、お金、地位名誉を目的にしてしまっているのが、間違いのもとなんです。

でも、目的作るのも、周りまわって自分が幸せになるようなものを目的にしたらあきまへんで、自分のためだけにすると何してるかわからへんからね。

これを自己回帰性といいます。ブーメランみたいなものですわ。ブーメランというのは、ピュッと投げて向こうの獲物に当たらんかったら戻ってくる。首尾よく獲物

にあたったら戻ってきまへんやん。

ですから、ブーメランがピュッと帰って来たら、喜ぶんちゃいまっせ、実は失敗なんですから。

それと同じように、幸せが自分に帰って来たら、これは失敗した人生ですね。

阿弥陀さんの本願というのはね、阿弥陀さんの為に作つた本願は一つもおまへんねん。全部人のためなんです。

私たちの願いは全部自分のためなんです。だから欲望というんですね。

欲望と本願とどこが違うかというところ、本願はちゃんと働いて、自分以外の誰かのために働いているけれど、欲望は自分のために働くから、ブーメランが何もせんと帰ってきたと一緒なんです。

何の働きもしていない。

覚るということが、実は阿弥陀さんが私たちに作ってくれた目的なんです。今日からは覚りを開くということを目的としてください。

そして方法は、南無阿弥陀仏とまあだいたい良い加減に100回ぐらい口にする。

これしかありません。

目的も方法も阿弥陀さんに決めてもらうことが実は大事なんです。これを信心というんです。

『正信偈』を読む 五十六

―法然（ほうねん）上人、真宗を興す―
 本師源空明仏教 憐愍善悪凡夫人
 真宗教証興片州 選択本願弘悪世
 （お勤めの本 30頁1行目から30頁最後）



読み方

本師源空（ほんじげんくう）は、仏教をあきらかにして、善悪の凡夫人（ぼんぷにん）を憐愍（れんみん）せしむ。

真宗（しんしゅう）の教証（きょうし）きょうしよつ、片州（へんしゅう）に興（おこ）す。選択（せんたく）本願（ぼんがん）せんじゃくぼんがん、悪世（あくせ）にひろむ。意訳

私（わたし）親鸞（しんらん）の師匠（ししやう）、法然（ほうねん）房源空（ぼうげんくう）は、特に仏（ぶつ）の教え（け）を真（ま）に人間（にんげん）のためのものとして明らかにしてくださいました。

そして、自分を価値基準（かちきくせん）として、物事（ものごと）を善（よ）と悪（わる）とに分けては悩（なや）んでいく私たち凡夫（ぼんぷ）ぼんぷ、ただ人（ひと）を、深くあわれみいしましたのです。

ただ念仏（ねんぶつ）することによって成仏（じやうぶつ）するという真宗（しんしゅう）の教え（け）と真実（まこと）なる法（は）を、たしかな証果（しやうくわ）ひよつか、つまりお念仏（ねんぶつ）によって救（きう）われていくという事実（じじつ）を、明らかなる理由（りゆう）を挙（あ）げて、この世界の片（かた）はしの島（しま）国（くに）日本（にっぽん）に興（おこ）されたのです。

そして仏法（ぶつぽう）の粹（すい）（すい）を選（せん）取（と）取（と）せんにゃくせつしゅ、選（せん）び取（と）る（と）られた本願（ぼんがん）のみ法（みは）を、生きていくためには互（た）いに殺（ころ）しあうことも辞（や）まない悪世（あくせ）（あくせ）にひろめられました。

背景

前回（前回）までになさねてきたように、親鸞（しんらん）聖人（せいじん）の師匠（ししやう）である法然（ほうねん）上人（じやうじん）は、十五歳（じふごさい）の時（とき）に出家（しゅげ）して比叡山（ひゑさん）に登（のぼ）りました。

非常に優秀（ひじょうにゆうしゆう）な方で、智恵（ちゑ）第一（だいいち）の法然（ほうねん）房（ぼう）と呼ば（よ）ばれ、学問（がくもん）で上人（じやうじん）にかなう者は誰（たれ）もいませんでした。しかし、上人（じやうじん）自身（みづか）はいくら学（まな）んでも、自分の救（きう）われる道（みち）が見（み）つからず悩（なや）んでいました。

ところが、あるとき善導（ぜんどう）大師（だいし）の書（か）かれた「ただ念仏（ねんぶつ）」という意味（い）の文言（もんごう）に、はつと気が（き）つきます。「私（わたし）こそがただ人（ひと）凡夫（ぼんぷ）（ぼんぷ）であつた。念仏（ねんぶつ）こそが私（わたし）を、そして誰（たれ）をも救（きう）う仏教（ぶつぎやう）である」と。

そして上人（じやうじん）は比叡山（ひゑさん）を降り（おり）、京都（きやうと）東山（とうざん）のふもと吉水（きちみづ）に草庵（そうあん）を建て（た）、人々（ひと）に念仏（ねんぶつ）を勧（すす）められたのです。

平成二十一年 年忌法要

年回	年回にあたる没年
一周忌	平成二十年
三回忌	平成十九年
七回忌	平成十五年
十二回忌	平成九年
十七回忌	平成五年
二五回忌	昭和六十年
三三回忌	昭和五十二年
五十回忌	昭和三十五年

法要（ほふ）の日取りは、命日（めいじつ）より遅（おそ）れることがあつても差（さ）し障（さ）りありません。

また、大安（だんあん）・仏滅（ぶつめつ）などの日柄（ひがら）を気にする必要（ひつよう）もありません。

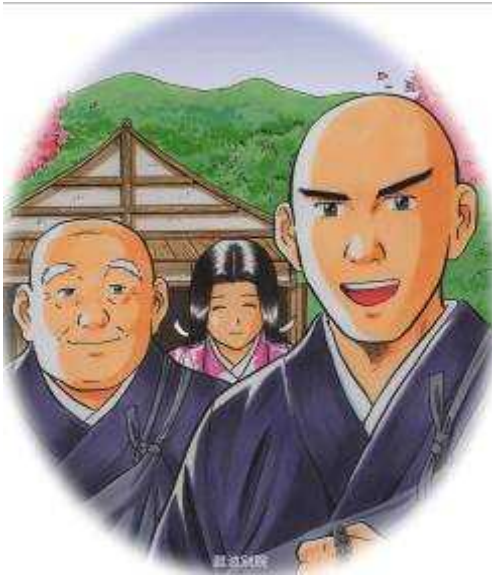
なお、次の年忌（ねんぎ）をお勤（おごん）めされる場合（ばあ）もありま

- 二十三回忌 昭和六十二年没
- 二十七回忌 昭和五十八年没
- 三十七回忌 昭和四十八年没

どうぞ
お気軽に
参加ください

学習会のご案内

「まんがで読む宗祖親鸞聖人」



なんだか感じる不安感。
今こそ、鎌倉という動乱
の世を、人間として、念仏
者として生きた聖人のご生
涯を、一緒にたずねてみ
ませんか。

『まんが宗祖親鸞聖人』は
お寺で準備します♪

第1回 1月27日 午後7時30分～ 本堂にて
(2回目は2月27日を予定)

編集後記

今年も本堂で多くの方々と一緒に新年をお迎えすることができました。心より皆様に感謝を申し上げます。さて、当日も少しお話ししましたが、お正月ということ、本願寺第八代の蓮如上人の逸話を思い出します。

蓮如上人七十九歳のお正月に、道徳という弟子が挨拶に来ました。道徳が挨拶を申そうとすると、上人はおっしゃいます。「道徳よ、いくつになった。念仏申せ。」

数え年では、お正月で皆ひとつ年を取りますから、年齢を聞くことは不自然ではありません。しかし、その答えを聞かずに「念仏申せ」とつながり、原文では、さらにお念仏こそが如来の働きであると展開していきます。

この年、道徳は七十四歳になっています。平均寿命が五十歳以下であったろう時代、まさしく長老同士の会話であり、道徳にとつては何度も聞いた内容でしょう。

私にはこの逸話が、年齢も時期も関係なく常に「初心に帰れ」と、教えてくださる気がします。

でも振り返って、私の帰るべき「初心」とは何でしょう。蓮如上人は「念仏申せ」とおっしゃいます。この問いへのヒントは、私たちの先祖や先輩方が、親鸞聖人を宗祖（ひょうそ）私よりどころの教えの先祖と呼んできたことに関係があるように思えます。

現在、中東では、戦争という殺人が年末から続いています。また、国内は得もいえぬ不安感に包まれてます。

そんな中、不十分ですが、今年からマンガを使った学習会を始めようと思います。どうですか、一緒に、それぞれの初心を確認してみませんか。

住職 山雄 竜磨